医学部　教育の方針

教育の基本的目標

医学部は、その最重要な使命として優れた医療人及び医学研究者の養成活動を充実させます。長年にわたる着実な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し得る能力を涵養します。また学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、医の倫理に徹し、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援します。併せて国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

医学部の教育の基本的目標に掲げられた「学生が主体的に科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し得る能力」「医の倫理に徹する力」「高い総合的能力」「高い人格」をそれぞれ「実践力」「探求力」「コミュニケーション力」「専門力」「教養力」として捉え、「人々の健やかさを守るために高い倫理観の下で専門的知識・技能を的確に発揮してしなやかに成長し続ける、医学・保健学領域の先駆的実践者」を養成します。

人々の健やかさを守るために高い倫理観の下で専門的知識・技能を的確に発揮してしなやかに成長し続ける、医学・保健学領域の先駆的実践者

以上の本学部の「教育の方針」を踏まえ、医学部医学科の教育の方針は以下のとおりです。

医学部医学科　教育の方針

教育の基本的目標

医学部医学科は、その最重要な使命として優れた臨床医及び医学研究者の養成活動を充実させます。長年にわたる着実な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し得る能力を涵養します。また学生同士や教職員との密接な対話や議論並びに生涯学習を通じて、個々人が医の倫理に徹し、社会的信頼を得るに足る豊かな人間性を醸成できるように支援します。併せて国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

医学部医学科の教育の基本的目標に掲げられた「学生が主体的に科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し得る能力」「医の倫理に徹する力」「高い総合的能力」「高い人格」をそれぞれ「実践力」「探求力」「コミュニケーション力」「専門力」「教養力」として捉え、「人々の健やかさを守るために高い倫理観の下で専門的知識・技能を的確に発揮してしなやかに成長し続ける、医学領域の先駆的実践者」を養成します。

人々の健やかさを守るために高い倫理観の下で専門的知識・技能を的確に発揮してしなやかに成長し続ける、医学領域の先駆的実践者

以下、５つの力を持つ人材を養成します。

- 他者と繋がり医学・医療の課題解決に挑む実践力
- 生命や事象をありのままに捉え、医学・医療の課題を見出す探究力
- 医学・医療において他者と繋がり学び合うコミュニケーション力
- 地域・世界の医学・医療が求める基礎的かつ体系的な専門力
- 医学・医療や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

医学部医学科は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】他者と繋がり医学・医療の課題解決に挑む実践力

医療者、医学研究者として、地域・世界の多様な医療課題の解決に向けて高い倫理観を持って自ら進んで行動することができる。

【探究力】生命や事象をありのままに捉え、医学・医療の課題を見出す探究力

医療者、医学研究者として、恒常的な医療の質向上に向けて、絶えず学術的且つ多角的な視点で課題を見つめ取り組むことができる。

【コミュニケーション力】医学・医療において他者と繋がり学び合うコミュニケーション力

医療者、医学研究者として、多様な方法を適切に用いながら、共感性豊かな対話と傾聴によって差異を超えて互いを高め合うことができる。

【専門力】地域・世界の医学・医療が求める基礎的かつ体系的な専門力

医療者、医学研究者として、専門領域における基盤的知識・技能を高い水準で身につけ、必要に応じてしなやかに伸長させながら的確に発揮することができる。

【教養力】医学・医療や社会に関心を持ち、学びを習慣化する力

医療者、医学研究者として、地域・世界の多様な医療課題に関心を持ち、豊かな人間性と深い教養を身に付けるために絶えず好奇心を持って学び続けることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、医学科として以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会における医学・医療の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、医学・医療において「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。

【専門教育】

医学領域の多彩な教育内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、協働を通して創造したりすることができる機会を提供します。

自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ標準的な医学領域の知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

医療者、医学研究者として、グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

聞く、読む、話す、書く、を統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群による初修外国語に加えて、医学領域の専門科目についても英語を用いて学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても医学英語を学ぶ機会を創出します。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

⑴自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。
人が交わる共通教育、知が交わる専門教育、言葉が交わる言語教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。
⑵総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。
自らの専門を尊重しながらも、様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を医学科の全科目で展開します。
⑶学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。
学士課程では学内外及び国内・国外の医療現場における実習・演習やリサーチ・インターンシップ等、地域や世界とつながった実践的な学びを提供します。

学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施します。
医学科における授業科目の成績評価については、基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

医学部医学科は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

学んで身につけた知識を統合して課題に迫る実践力、課題に対する自らの考えを多角的に導き出す探究力、自らの疑問や興味、考えを多様な方法で分かり易く表現できる力、自然や社会に関する高い水準の知識・語学力、学びそのものに興味を持ち、工夫・創造することができる力を身につけている人材を広く求めます。

求める力

【実践力】
学んで身につけた知識を統合して課題に迫ることができる。
【探究力】
課題に対する自らの考えを多角的に導き出すことができる。
【コミュニケーション力】
自らの疑問や興味、考えを多様な方法で分かり易く表現できる。
【専門力】
自然や社会に関する高い水準の知識・語学力を備えている。
【教養力】
学びそのものに興味を持ち、工夫・創造することができる。

医学部医学科の選抜方針

幅広く多様な人材を確保するため、複数の試験及び日程の入試を実施します。

医学部医学科の選抜方法

学力検査、面接、書類審査、ペーパーインタビューなどによる試験のいずれかを、あるいは組み合わせて行い、本学での学修に足る学力または適性を測ります。

選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

一般選抜(前期日程)

６教科８科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査等では数学・理科２科目・外国語(英語)を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。また面接により、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に判断します。

学校推薦型選抜Ⅱ(大学入学共通テストを課すもの)

地域枠コースとして募集、選抜を行います。調査書・志願所信書等の書類審査と面接試験で、志望する各県の出願要件を満たし、各県が貸与する奨学金を受給すること、かつ当該県内での医療に従事する強い意思を確認し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に判断します。入学後の学修のため、６教科８科目の大学入学共通テストを課し、基準点以上の者から選抜します。

私費外国人留学生選抜

本学の定めた出願資格を満たしている者に対して、書類審査、日本留学試験（日本語、数学コース２、生物および他１科目理科）を課し、日本の高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力試験では数学・理科２科目・外国語(英語)を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

国際バカロレア選抜

国際バカロレア資格（IB 最終成績評価 39／45 点以上）を有し、日本語（言語 A で成績評価４以上）又は、言語 B で成績評価 HL(HIGHERLEVEL)6 以上、理科２科目および数学（所定の成績評価以上）を修得した者に対して、書類審査を行い、日本の高等学校卒業レベルの基礎学力および医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

第２年次編入学（学士入学）

本学の定めた出願資格を満たしている学士に対して、書類（TOEFL-iBT 成績証明含む）審査を行います。書類審査合格者を対象に、学力試験では生物学を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。加えて、小論文により問題解決能力、知的探究心、独創性を評価し、面接により、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

入学者選抜と、学力の３要素との関係

入試区分	知識･技能		思考力･判断力･表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜 （前期日程）	○	大学入学共通テスト	◎	個別学力検査（数学，理科，外国語（英語） 面接	☆	面接 調査書
学校推薦型選抜Ⅱ	◎	大学入学共通テスト	☆	面接 推薦書･志願所信書	☆	面接 調査書･推薦書･志願所信書
国際バカロレア選抜	◎	IB スコア	☆	IB スコア 自己推薦書	○	面接 評価書
第2年次 編入学	◎	TOEFL-iBT スコア 成績証明書 学力検査	◎	小論文 面接	☆	面接 推薦書

（注）◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

入学前に学習しておくことが期待される内容

高等学校において、論理的思考力を身につけ、筋道の立った文章を書き、自然科学の基礎知識と思考方法を習得しておくことが必要です。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科、情報です。

医学部　教育の方針

教育の基本的目標

医学部は、その最重要な使命として優れた医療人及び医学研究者の養成活動を充実させます。これまでの卓越した研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し得る能力を涵養します。また学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、医の倫理に徹し、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援します。併せて国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

医学部の教育の基本的目標に掲げられた「学生が主体的に科学的思考法と高度な医学的知識・技術を体得し得る能力」「医の倫理に徹する力」「高い総合的能力」「高い人格」をそれぞれ「実践力」「探求力」「コミュニケーション力」「専門力」「教養力」として捉え、「人々の健やかさを守るために高い倫理観の下で専門的知識・技能を的確に発揮してしなやかに成長し続ける、医学・保健学領域の先駆的実践者」を養成します。

人々の健やかさを守るために高い倫理観の下で専門的知識・技能を的確に発揮してしなやかに成長し続ける、医学・保健学領域の先駆的実践者

以上の本学部の「教育の方針」を踏まえ、医学部保健学科の教育の方針は以下のとおりです。

医学部保健学科　教育の方針

教育の基本的目標

医学部保健学科は、その最重要な使命として優れた高度医療人および研究者の養成活動を充実させます。これまでの卓越した研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に科学的思考法と高度な医療的知識・技術を体得し得る能力を涵養します。また学生同士や教職員との密接な対話や議論並びに生涯学習を通じて、個々人が医療の倫理に徹し、社会的信頼を得るに足る豊かな人間性を醸成できるように支援します。併せて国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

医学部保健学科の教育の基本的目標に掲げられた「学生が主体的に科学的思考法と高度な医療的知識・技術を体得し得る能力」「医の倫理に徹する力」「高い総合的能力」「高い人格」をそれぞれ「実践力」「探求力」「コミュニケーション力」「専門力」「教養力」として捉え、「人々の健やかさを守るために高い倫理観の下で専門的知識・技能を的確に発揮してしなやかに成長し続ける、医療・保健における先駆的実践者」を養成します。

人々の健康増進のために、高い倫理観と豊かな人間性を備え、高度な専門的知識・技能を的確に発揮して、高度なコミュニケーション力と探究力によりしなやかに成長し続ける、医療・保健における先駆的実践者

以下、５つの力を持つ人材を養成します。

- 医療・保健のリーダーとして課題解決に挑む**実践力**
- 生命や事象をありのままに捉え、医療・保健の課題を見出す**探究力**
- 医療・保健において他者と繋がり学び合う**コミュニケーション力**
- 地域・世界の医療・保健が求める基礎的かつ体系的な**専門力**
- 人間性に富む医療実現のため絶えず好奇心を持って学び続けることができる**教養力**

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

医学部保健学科は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】医療・保健のリーダーとして課題解決に挑む実践力

個人ならびに医療チームの一員として、高い倫理観を持って時代と社会をリードして、地域・世界の多様な医療課題の解決のために、自ら進んで行動することができる。

【探究力】生命や事象をありのままに捉え、医療・保健の課題を見出す探究力

高度医療人および研究者として、恒常的な医療の質向上のために、絶えず学術的かつ多角的な視点で課題を見出し、改善に向けて取り組むことができる。

【コミュニケーション力】医療・保健において他者と繋がり学び合うコミュニケーション力

高度医療人および研究者として、多様な方法を適切に用いながら、共感性豊かな対話と傾聴によって、差異を超えて互いを高め合うことができる。

【専門力】地域・世界の医療・保健が求める基礎的かつ体系的な専門力

高度医療人および研究者として、専門領域における基盤的知識・技能を高い水準で身につけ、必要に応じて健康に関わる技術開発や課題解決に活用できる。

【教養力】人間性に富む医療実現のため絶えず好奇心を持って学び続けることができる教養力

高度医療人および研究者として、地域・世界の多様な医療・保健の課題に関心を持ち、人間性に富む医療のための豊かな教養を身に付けるため、絶えず好奇心を持って学び続けることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、保健学科として以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会における医療・保健の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、医療・保健において「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

【共通教育】

自身の考えと異なる人との対話や協働を進めるために必要な知識や技能を身につけ、他の学生と学び合い、共に育ち共に創る実践的なカリキュラムを提供します。

【専門教育】

自身の考え方を豊かにする異分野の知識や技能、自身の専門を築いていく体系的かつ標準的な医療・保健領域の知識及び技能を、学生同士が切磋琢磨することにより身につけるカリキュラムを提供します。

【言語教育】

高度医療人、研究者として、グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。聞く、読む、話す、書くを統合した総合力を伸ばすために必要な英語、異文化理解の科目群による初修外国語に加えて、医療・保健領域の専門科目についても英語を用いて学ぶ機会を提供します。加えて、正課のみならず正課外においても医学英語を学ぶ機会を創出します。

［具体的な履修の展開］

共通教育、専門教育および言語教育の「教育内容の考え方」を具体的に示すと、以下のとおりです。

１年次

外国語、課題探究、情報・数理データサイエンス、リベラル・アーツなどの共通教育科目や言語教育科目に加え、医療の基本となる各専攻に共通する知識や技術について専門教育科目のうちの専門基礎科目にて学びます。また、これに加えてそれぞれ専門のイントロダクションを専門科目で学びます。また、医療従事者として最も重要な「チーム医療」の理念と実際を体得するための学部ガイダンスによる演習も必修科目となっています。また医学科、医学部、薬学部の３学部４学科の学生とともに、１年から４年間を通して各学年で多くの多職種連携講義や演習を行っています。

２年次

教養教育科目を学びながら、一方で「講義」や「演習」・「実験」などの専門教育科目をより多く履修し、各専攻の専門領域の基礎知識や技術を学びます。２年次からの「講義」、「演習」・「実験」では、学修者主体の学修が多く取り入れられ、課題探究型学習が増えていきます。

３年次

より専門性の高い専門教育科目を履修するとともに、多くの専攻で、本格的に大学病院等で臨地実習が開始されます。また、多くの専攻で、３年次の後半から指導教員のもとで研究の基礎を学ぶゼミナールが始まります。なお、２-４年次のいずれかで、４学期制を活用して留学・インターンシップなど長期間の学外活動にチャレンジできる機会も設けられています。

４年次

実習と平行して、指導教員毎に配属された研究室において、教員の指導の下に卒業論文を完成させます。さらに、開講される医療系学部共通科目においては、臨地実習とは視点の異なる医療の最前線や実際を学ぶ機会を提供し、専門性を高めます。４年次の後半には、それぞれの専攻が目指す国家資格（看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師等）の国家試験が行われ、基本的には全員が目指す職種の試験を受験することになります。大学教育としてのカリキュラムの成果は、国家試験の受験に十分に耐え得るものになっています。

教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

⑴　自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。
人が交わる共通教育、言葉が交わる言語教育、知が交わる専門教育を通して他者を理解し、切磋琢磨しながら、自身の可能性を広げる教育方法を実施します。

⑵　総合大学の特長を活かした教育体系を提供します。
自らの専門を尊重しながらも、他の様々な専門との出会いにより、共に考え、共に動き、共に創り、共に育む教育体系を保健学科の全科目で展開します。

⑶　学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。
学内外および国内・国外の医療現場における実習・演習やインターンシップ等、地域

や世界とつながった実践的な学びを提供します。

学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施します。

保健学科における授業科目の成績評価については、基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を評価します。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

医学部保健学科は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

求める人材像

チームの一員として課題に積極的に取り組むことができる実践力、課題に対して多角的な視点で検討することができる探究力、他者との違いを理解し、自らの考えを多様な方法で分かり易く表現できるコミュニケーション力、自然科学や社会に関する基礎的知識があり、それらを応用できる力、人間性を高めるために多様な課題に対して好奇心を持って学び続けることができる力を身に付けている人材を広く求めます。

求める力

【実践力】
チームの一員として課題に積極的に取り組むことができる。
【探究力】
課題に対して多角的な視点で検討することができる。
【コミュニケーション力】
他者との違いを理解し、自らの考えを多様な方法で分かり易く表現できる。
【専門力】
自然科学や社会に関する基礎的知識があり、それらを応用できる。
【教養力】
人間性を高めるために多様な課題に対して好奇心を持って学び続けることができる。

医学部保健学科の選抜方針

幅広く多様な人材を確保するため、複数の試験及び日程の入試を実施します。

医学部保健学科の選抜方法

学力検査、面接、書類審査、模擬講義を踏まえた小論文、総合問題による試験のいずれかを、あるいは組み合わせて行い、保健学科での学修に足る学力または適性を測ります。

選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

・一般選抜(前期日程)
看護学専攻文系では６教科７科目、看護学専攻理系・放射線技術科学専攻・検査技術科

学専攻では６教科８科目の大学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力を評価します。個別学力検査では、それぞれの専攻に応じた科目（看護学専攻では外国語、放射線技術科学専攻では数学・理科・外国語、検査技術科学専攻では理科と数学もしくは外国語）を課し、医療・保健に関する健康科学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。また面接により、目的意識、自己表現力やコミュニケーション能力など、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を総合的に判断します。

・総合型選抜

大学入学共通テストについては、希望する専攻の専門をふまえて看護学専攻では５教科５科目、放射線技術科学専攻では５教科７科目、 検査技術科学専攻では４教科６科目を課し、高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力を評価します。書類審査では、調査書ならびに自己推薦書を通して、自己表現力や学習意欲を総合的に評価します。また面接（口述試験を含む）により、大学で学ぶ専門領域についての関心や意欲、自己表現力、コミュニケーション能力など、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を総合的に評価します。さらに、看護学専攻・放射線技術科学専攻では小論文（模擬講義を踏まえて）により、論理的思考力・判断力・理解力、文章力や表現力を評価します。検査技術科学専攻では総合問題により、 基本的な理科的知識及び医療や生命科学に関連する英文を用いて基礎的英文読解能力や科学的思考能力を評価します。

・社会人選抜

書類審査では、調査書・履歴書ならびに志望理由書を通して、専門領域についての関心と学習意欲を判断します。また面接（口述試験を含む）により、大学で学ぶ目的意識と意欲、自己表現力、コミュニケーション能力など、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を総合的に評価します。さらに、看護学専攻・放射線技術科学専攻では小論文（模擬講義を踏まえて）により、論理的思考力・判断力・理解力、文章力や表現力を評価します。検査技術科学専攻では総合問題により、 基本的な理科的知識及び医療や生命科学に関連する英文を用いて基礎的英文読解能力や科学的思考能力を評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本留学試験を課し、基礎的な日本語能力を評価します。学力検査では日本人受験生と同一の数学（看護学専攻では数学を課さない）、理科２科目（看護学専攻では理科を課さない）及び外国語（英語）を課し（検査技術科学専攻では数学または外国語のどちらかを選択）、基礎的知識、応用力、理解度を評価します。

面接では大学で学ぶ目的意識と意欲、自己表現力やコミュニケーション能力など多面的な質問を行い、医療・保健の専門性を習得する上での適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア選抜

書類審査により、成績評価証明書、自己推薦書、評価書を通して、基礎学力、自己表現力、意欲を評価します。また面接では、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を評価します。

入学者選抜と、学力の３要素との関係

看護学専攻

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜（前期日程）	◎	大学入学共通テスト	○	個別学力検査（外国語） 面接	○	調査書 面接
総合型選抜	○	大学入学共通テスト 英語資格・検定試験成績（任意）	◎	小論文（模擬講義を踏まえて） 面接（口述試験を含む）	○	調査書 自己推薦書 面接
国際バカロレア選抜	○	調査書	◎	面接	○	調査書 自己推薦書 面接
社会人選抜	○	調査書	◎	小論文（模擬講義を踏まえて） 面接（口述試験を含む）	○	調査書 自己推薦書 面接
私費外国人留学生特別選抜	◎	日本語留学試験	○	個別学力検査（外国語） 面接	○	面接

（注）◎は特に重視する要素、○は重視する要素
各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

放射線技術科学専攻

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜（前期日程）	◎	大学入学共通テスト	○	個別学力検査（数学・理科・外国語） 面接	☆	調査書 面接
総合型選抜	○	大学入学共通テスト 英語資格・検定試験成績（任意）	◎	小論文（模擬講義を踏まえて） 面接（口述試験を含む）	○	調査書 自己推薦書 面接
国際バカロレア選抜	○	調査書	◎	面接	○	調査書 自己推薦書 面接
社会人選抜	○	調査書	◎	小論文（模擬講義を踏まえて） 面接（口述試験を含む）	○	調査書 自己推薦書 面接
私費外国人留学生特別選抜	◎	日本語留学試験	○	個別学力検査（数学・理科・外国語） 面接	○	面接

（注）◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素
各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

検査技術科学専攻

入試区分	知識・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜（前期日程）	◎	大学入学共通テスト	○	個別学力検査（理科・数学もしくは外国語） 面接	☆	調査書 面接
総合型選抜	○	大学入学共通テスト 総合問題 英語資格・検定試験成績（任意）	◎	総合問題 面接（口述試験を含む）	○	調査書 自己推薦書 面接
国際バカロレア選抜	○	調査書	◎	面接	○	調査書 自己推薦書 面接
社会人選抜	○	調査書	◎	総合問題 面接（口述試験を含む）	○	調査書 自己推薦書 面接
私費外国人留学生特別選抜	◎	日本語留学試験	○	個別学力検査（理科・数学もしくは外国語） 面接	○	面接

（注）◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素
各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

入学前に学習しておくことが期待される内容

高等学校で学ぶ国語、数学、理科、社会、英語の基礎的内容を理解していることが必要です。特に選抜で受験する科目として化学あるいは生物を選択していない場合でも、看護学専攻においては生物の基礎、検査技術科学専攻においては生物基礎、化学基礎および物理基礎について理解していることを期待します。また放射線技術科学専攻においては数学と物理について理解していることを期待します。